

劉備玄德

剣ではなく、人の心で



今から千八百年ほど前、中国では漢という大国がかたむき、各地で力のある者が争っていました。その中に劉備玄德がいました。

劉備の家は貧しく、わらじやむしろ（わらであんだしき物）を売って暮らしていました。皇帝の血を引く家系だと伝えられていますが、そのころはただの村の若者で、兵も土地もお金もありませんでした。

子どものころ劉備は勉強がきらいで、犬や馬、音楽、着物が好きだったと言われています。また幼いころ劉備は、家の大きな桑の木が身分の高い人の馬車の屋根のように見えたため、「いつかあの馬車に乗る」と言ったそうです。

（ア）、劉備のもとには人が集まりました。

はじめに集まったのが関羽と張飛です。三人は義兄弟のちぎり（かたい約束）を結び、生まれた日はちがっても死ぬ日は同じにしようと思っていました。

劉備には、ほかの英雄にないものがありました。それは徳です。徳とは、まわりから「この人についていきたい」と思われる人からです。

その徳が表れている話があります。ある時、強い敵に攻められた劉備が逃げると、民が十万人もついてきました。民がいては敵に追い付かれます。家来が「民を置いていきましょ」と言いました。（イ）劉備は首をふりました。「大きなことをするには、人がいけばん大事なんだ」と言って、命があぶなくても民を置いていかなかったと言われています。

そして、三顧の礼という有名な話もあります。劉備は土地がなかったため、国を持つ道すじを教えてくれる人を探していました。そこで、頭の良さで知られる諸葛孔明を訪ねました。しかし、一度目も二度目も孔明は留守でした。五十歳近い劉備が二十七歳の若者である孔明の家に三度も通うのは、当時は考えられないことでした。

そこでまでして会いに来た熱意に心を動かされ、孔明は劉備に仕えます。（ウ）、劉備はようやく自分の国を持ちました。それが蜀です。中国の北側をとった曹操にも、南側の豊かな土地を治める孫権にも、力では及びませんでした。けれども劉備には人がついてきます。劉備が最後まで持ち続けたのは、剣ではなく人の心でした。

選択(1)

劉備について、文章の内容に合うものはどれですか？
選んで○をつけましょ。

- ① 皇帝の子として大きな国を受けついだ
- ② 曹操より強い兵を持っていた
- ③ 逃げるときも民を置き去りにしなかった

選択(2)

文章の（ア）（イ）（ウ）に入る言葉の組み合わせはどれですか？

- 選んで○をつけましょ。
- ① ア…だから イ…つまり ウ…それで
- ② ア…やがて イ…ところが ウ…こうして
- ③ ア…たとえば イ…それでも ウ…ところで

記述(1)

劉備が孔明の家を三度たずねたことを何といいますか。文章から書き出ましょ。

記述(2)

劉備が家来の言うとおりに民を置いていかなかったのは、なぜですか。文章をもとに書きましょ。

漢字

漢字に直して書きましょ。

(1) ころざし

(2) そんけい

(3) ぶしょう

こたえ

劉備玄德

選択 せんたく

(1) ③
(2) ②

(2) アⅡやがて／イⅡところが／ウⅡこうして

記述

(1) 三顧 さんこ の礼 れい

(2) 大きなことをするには人がいちばん大事だと考えていたから

(2) は同じ意味が書けていれば○です

漢字

(1) 志
(2) 尊敬
(3) 武将